

令和5年度学校アンケート結果について（ご報告）

1 基本的な生活習慣の育成

(1) あいさつについて

幼小中一貫教育で『瀬戸中学校区の子どもたちは、「あいさつ」と「なかま」を大切にす
る』を目標に、それぞれの校・園で発達段階に合わせた取組を継続して行ってきました。

アンケートの結果では「あいさつ」について肯定的な意見（よくあてはまる、あてはまる）
が、児童⑩77%（74.2%）、保護者⑬71.6%（71.5%）と回答しています。〔（ ）内は、昨
年度の数値。以下も同じ。〕今年度も、中学生と合同であいさつ運動を実施しました。今後
もあいさつの取組を継続していきます。

(2) 規範意識について

「きまりを守る」、児童⑮91.3%（83.3%）、保護者⑫88.6%（85.4%）が肯定的な意見で
した。昨年度よりも伸びています。比較的落ち着いた学校生活を送れており、課題や個人差
はあるものの、一定の規範意識が身につけていると感じています。

(3) 生活リズムについて

「身の回りの整頓」児童⑭77.6%（65.4%）、「決まった起床時間」児童⑯67.7%（62.5
%）が肯定的な意見でした。朝、決まった時間に起きている児童が5%増えました。家庭で
のスマホやゲームの利用等も含め、家庭との連携を今後も図っていきたいと思います。

(4) 体力づくりについて

「体力づくり」児童④78.9%（73.2%）、保護者④78.7%（80.4%）が肯定的な意見でし
た。元気っ子タイム、大縄跳び大会、体操発表会、水泳・陸上記録会の練習等、各種活動が
再開し、外遊びも奨励してきました。今後も、様々な運動を楽しみ、達成感や充実感をもて
るよう、取組を継続していきます。

(5) 進んで学級や学校をよくしようとする子どもを育てる

「学級の係や当番の仕事、掃除への取組」児童⑰肯定的な意見が、84.5%（86.3%）でし
た。8割を超える児童が肯定的な意見でしたが、自発的・積極的な活動にはまだ課題があり
ます。児童⑱「学級・学校の一員として、考えて行動している」では、78.1%（73.2%）が
肯定的な意見でした。コロナ前の日常に戻り、行事等が復活し子どもたちが活動・活躍す
る場が増えたことが要因と考えます。今後も子どもたちが主体的に動けるような、学校生活・
行事等を工夫します。

2 学力の向上

(1) 学校での学習について

児童では、「分かりやすい授業」①93.1%（97.0%）、「漢字や計算の力がついた」②83.3
%（81.0%）、「テストで思い通りの点がとれた」③64.0%（59.5%）、「授業中人の話を聞
く」⑤79.5%（79.2%）、保護者では、「勉強への意欲的な取組」①77.3%（74.1%）、「基
礎的な学力定着」、③83.7%（82.3%）、「学習規律の定着」⑤82.9%（85.4%）でした。本
校では、昨年度から算数科の授業方法の改善を中心に研究・実践を深めてきました。「漢字
や計算の力」「テストで思い通りの点」「勉強への意欲的な取組」が伸びています。児童の
意識の流れを大切にしながら、問題の提示や発問や問い直しを工夫することにより、子ども
たちの既習事項を生かして問題解決に取り組む姿が増えてきています。反面、「分かりやす

い授業」が9割は超えているものの昨年度よりやや下がっています。「先生が1人より2人以上の方がいい」児童⑥75.7% (63.1%) は、12.6%上がっています。2人以上の教員での授業が効果的だったと言えることから、子どもたちがよりわかる授業を展開し、一人一人に応じた指導について、今後も工夫改善していきます。児童⑦「グループ学習・話し合いの学習」が76.4% (77.4%) でした。ペアやグループ学習は多く設定してきましたが、今後、単なる意見発表ではなく、新しい考えを得たり自分の考えを高めたりすることができるようにしていきます。また、児童自らが問題を見つけて話し合った結果が、生活に役立つ経験ができるようにし、意欲を高めていきます。

(2) 家庭での学習について

「宿題」についてのアンケートでは、児童⑥90.3% (73.2%)、保護者⑥87.9% (82.3%) が、肯定的な意見でした。本年度は、従来の宿題に加えて、冬休みに AI ドリルの学習などの取組を進めてきました。今後の課題としては、家庭での学習時間に加えて、子どもたちの自主的な学習につながるよう、内容の工夫改善を進めていく必要があると考えています。

3 人権意識と自己有用感の育成

(1) 人権意識について

児童④「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」97.5% (96.4%)、⑨「友達と仲よく生活している」92.5% (87.5%) は、昨年よりも肯定的な意見が伸びました。「子どもは、人のことを大切にして、友だちと仲よくしている」保護者④90.7% (92.4%) という回答結果でした。本年度も、幼小中一貫教育のめあてとして「なかまを大切にする」ことを幼小中のそれぞれで取り組んできました。小学校では、よいところ探しなどの普段の学級活動や授業としての人権学習などを年間計画をもとに進めています。今後も教職員研修や児童理解の時間を取り入れ、人権教育を充実させ、確かな人権感覚を身に付けることができるようにしていきます。

ここで「先生が相談にのる」は、児童⑩83.9% (87.5%)、「先生が問題に素早く対応」保護者⑩79.4% (82.3%) という結果でした。この結果を真摯に受け止め、児童一人一人を大切にするという原点に立ち返り、子どもたちや保護者の皆様の声に一層耳を傾け、情報共有、組織的な早期対応・解決に努め、子どもたちが安心して過ごせる学校をめざします。

(2) 自己有用感について

自己有用感に関するアンケートでは、「自分にはよいところがある」児童⑨75.8% (69.6%)、「自分は人の役に立つ」児童⑩75.2% (67.8%)、「先生はほめてくれる」児童⑪88.2% (85.8%)、「子どもは自分のいいところを理解している」保護者⑦71.6% (67.7%)。これらは昨年度より2%~7%伸びました。今後、さらに、異学年交流や体験学習を積極的に取り入れ、子どもたちが自分自身で表現し互いに認めていく場を増やし、子どもたちが自己有用感を十分感じることができるような実践を継続していきます。

4 その他

「学校が楽しい、楽しんで行っている」児童⑫77.0% (75.4%)、保護者⑫89.4% (86.1%) という結果でした。昨年度から伸びが見られます。今後、この結果がさらに伸びるよう、今年度浮かび上がった一つ一つの課題を改善し、子どもたちが安心して楽しいと思える学校、保護者の皆様がお子様を安心して通わせることができる学校づくりに、教職員一同邁進して参ります。